

くどう市長と語ろう！

ふれあいトーク (第16回)



日 時 平成28年2月21日(日) 13:30~

場 所 みのり公園管理棟(沼川)

《第16回 ふれあいトーク 開催結果》

■参加者数 19名 (男女別) 男性16名 女性3名

■はじめに市長から挨拶と近況報告を行った後、地域の災害時の対応（避難の方法や避難場所について、防災安全課より説明を行ないました。

■ふれあいトークで話し合われた内容は以下のとおりです。

1. 地域防災のあり方について
2. 稚内の将来像について
3. 医療・福祉・地域について
4. ひと・まち・しごと創成総合戦略について
5. 子育て環境(保育所)について
6. 廃屋対策について
7. 乗り合いタクシーについて
8. パークゴルフ場の将来について

※本冊子は参加されたみなさんより出されました上記のご意見・ご質問と、それに対する市長の発言（回答）を要約し掲載しております。内容によって、終了後に所管課において検討した結果及び付記事項等を合わせて掲載いたしました。

1. 地域防災のあり方について

◆参加者からの意見等

(質問・意見：学校関係者)

- ①東日本大震災から5年経ち、災害というのは本当に時と場所を選ばず、起こった時に命と安全をどうするか不安があり、今後更に大きな地震があった場合に備え、地域防災に関わり、お互いに考え合う組織や、防災会議などを作る必要があるのではないかと思う。それぞれがそれぞれのところで考えると言うより、全体的に相談し合う組織を、また、地域が広いので、一気にという訳には行かないが、防災に関わる訓練、避難訓練などをやってはどうかと思う。学校でも避難訓練をしているが、実際に震災があった時に、すぐ行動できるよう、この住民と一緒に考え実践していきたいなど。天北小中学校も避難所となっているが、実際に避難所として開設された場合、どんな風にして運営されるのか？避難所の運営マニュアルが必要と思う。災害時は支所か市から来てくれると思うが、教職員のみでは避難所としての機能が果たせないのではないかが心配。市として、避難所のマニュアルが必要と思う。
- ②避難所として機能するためには備品が必要。今年度、支所の方で動いてくれて、学校には毛布とかストーブとか配備されたが、避難所として地域のすべての分と言えは足りない。ぜひ備品の整備をお願いしたい。
- ③自主防災組織は市内に7つあるとのことだが、それぞれ個々でなく、全市的なところで話し合い、行動し合うような場があれば、もっと意識が上がるだろうし、防災に対する備えもできると思う。そういうものを作ったらどうかと思う。

(質問 町内会関係者)

- ④曲淵の避難場所は旧小中学校で、閉校後から13、4年経っている。電気、水などライフラインはあるが、自主避難ということになった時に、あそこで何日もできるか？と思った。最低限の生活も出来ないのではないかと。避難所（旧学校）で今使えるのは体育館だけで、以前の川の氾濫の時は、住民が町内会館に自主避難した。一応ガス、水道があり、町内会館も避難場所にしてほしい。その方が使い勝手がよいし、災害が起きた時に心も減入っているときに、避難所（旧学校）に行ったらもっと心が減入るなら自宅にいた方がいいになってしまう。耐久性は避難所（旧学校）の方がいいが、学校のそばが崖で、土砂崩れの懸念があり、町内会館の方が現実的と思う。



◆市長の発言

(防災安全課長)

- ①マニュアルの件は、こういうものだというマニュアルは現在作っていない。施設の特性や、職員が変わった場合など、マニュアルがないとわからないというのは事実だと思う。今後他市の取組とか参考にしながら、大まかなものになると思うがマニュアル化を進めていきたいと考えている。
- ②備品に関しては、昨年12月に学校に毛布100枚、ガスストーブ5台、ガスボンベ48本備蓄した。なにかあった時はそちらを使っていたが、数が十分とは思っていない。今現在稚内市の方で24年度から5年かけて、毛布とコンパクトブランケット合わせて7千枚、28年度まで計画的に備蓄するよう進めているところ。プライベート用品なども視野に入れて検討しているところ。
- ③防災組織は、稚内市内には、7つの町内会が自主防災を立ち上げていて、災害があった時の連絡網の構築、情報の収集、避難経路の確認、炊き出しなどの防災訓練を行っているところ。自主防災組織を立ち上げてないけどそのような活動をしている町内会もある。

(市長)

- ①②③補足すると、昨年の年末の爆弾低気圧で大規模停電が発生したが、我々も初めての経験で、酪農家が搾乳の時間にぶつかり、電源もない状況だったが、ただ発電機を集めただけでは問題が解決しないこともよくわかった。稚内農協も北宗谷農協もそうだが、搾乳の機械を融通し合ってやりくりできたことで、大きな被害にはならなかったと理解しているが、ああいうものも、稚内の中で同じ町内であっても、自主防災組織ができているところと全く違う災害ってあるんだな、ということが勉強になったし、災害は起きないのが一番いいが、起きたとしても未然に防げる、最小限に防げる、その経験値を積み上げて、次につないでいく、それが意味マニュアル化なんだろうと思う。いいことなのか悪いことかわからないが、火災などはある程度経験値を持っているが、色々な意味での経験値は口で言うほどまだないと思う。自主防災組織も新しく作っているが蓄積されていないんで、いろんなものに取り組んでいかななくてはならないんだなと、ご指摘をいただいたことについては最もな話だなと思う。どこの街でも災害はあるし、ここの地域固有の災害もある。ただ災害という言葉でひとくくりにはできないこともよくわかったので避難勧告、避難指示、ということにはご理解をいただいて、自助、共助、公助という流れで、先ずは何かあったら自分の身を、家族の身を守ってほしい。それができたら隣近所を守ってほしい。一番知っているのは、その地域の方。その間に我々ができることをしっかり消防・防災組織を通じてしっかり対応しなくては、ということで積み上げをさせているので、そこをご理解いただきながら、皆さんにご協力を戴いだかなくてはならないかなと思う。よろしくをお願いします。

(防災安全課長) ④曲渕の件については、今後検討させてほしい。

2. 稚内の将来像について

◆参加者からの意見等

(質問)

- ①稚内はとても住みやすい街だが、人口が減少する一方で、対策は市長さんはどのように考えているのか？今後の稚内市の若い人がよそに行かない対策について、若者にとって魅力ある稚内市とは、住みやすいということと、仕事がある、なしということとで格差があって、市長はどのように考えているのか？
- ②古い話だが、過去の（旧全日空）ホテル、大学、空港ジェット化などが稚内市の財源に大きな影響を与えたと思う。水産、酪農などの産業も厳しい中、将来のことをどういう風に考えているのか？

◆市長の発言

- ①私が今関心を持っているのは 2025 年問題。日本全体で人口減少となり、東京でも人口減少が始まってくる。2040 年くらいまで行くと、日本の街の約 6 割が、人口消滅の危険性の可能性があるという話で、我が街も一番ピークは、恐らく昭和 50 年頃、人口 5 万 8 千人くらいいた時があって、今回の国勢調査では約 3 万 6 千人。昔から、人口の動きというのは、社会増減と自然増減というのがあり、社会増減で言うと出先機関など、今までは家族で来ていたものが、一人でしか配置されないだとか、そういうことが続いて、減っていった。それを食い止めていたのは、10 年くらい前までは、生まれる子供の方が多かったが、今は亡くなる人の方が多くなり、そこがもう増える要素がないとなると、大きい企業増やせとか雇用増やせとか、考えられることはたくさんあるけど、現実問題として、空港もあるし、港もあることは、人口の割には珍しい街と言える。北海道の国道は高速化が遅れていて、インフラが整備されていないと、結局ここに工場を建てても、作ったものを運んでいくときに、余計に時間がかかる。そのためにコストが上がることで、どうしても敬遠されがち。そういうハンデを背負いつつ、よく言うように若者は、都会を経験したいと一度はここを出ていく。食い止めようと大学を作ってもそれだけでは難しい。
- 今我々が取り組んでいるのは、一つはサハリン。なかなか成果が見えないが、東京発、或いは札幌発といった、向こうからの目線で考えると、ここが一番遠く不利と言える。近いところに活路を見出すとすれば、我々にとってサハリンが一番近い都会であると言える。サハリンには 50 万人くらい住んでおり、そういう消費地を求めてのようがある。また、世の中が再生可能エネルギーだと、我々も含め、いろんな取り組みをしている。稚内では送電網の整備もそうだし、たくさん建っている風車は、あの一つ一つが発電所。まさにその規模で、ここは発電し、電気を送れる場所になる。ある意味、新しい産業を興すことと同じだと、ということで取り組みをしている。日々のことでは、若い人が住みたいねと、働きやすいねとってもらえるような、それだけで人口が増えるとは思わないが、定住したいという人が、一人でも増えてくれれば、人口減少を食い止める、そういう手立てになるだろうと。だから、今いる人たちに対しても、住みよい街を考えなくてはいいし、今の子どもたちにとって将来、出ていくのはしょうがない、

けれども、その後で帰ってきたいと思わせるような取り組みが今から必要であると。とにかくいろんなことに手を打っていないと、これから15年先、40年先、人は住まなくなるよと、それをもう我々に示されており、様々な事に手を打っているが、現実はなかなか難しい。

- 医師の問題も、かつて、医局の意思で、系列の病院に派遣できたが、研修医制度が変わって難しくなった。今は、地域枠という、学生を増やして受け入れているが、その効果が出るのは7、8年かかる。いろんな手立てを一生懸命やっているが、そもそもお医者さんの絶対数がいない。それでも周産期医療は守られていると思うが、そうでない市がたくさん出てきているので、そういう意味で、中央から遠くなればなるほど、ハンデが益々増えてきているといえる。ただ、そういう中で、住んでもらえないのであれば、交流人口を増やそうと、観光はもちろん、移住して、ちょっと暮らしたとか、そんな事をやりながら、少しでも若者がこの街に残りたい、住みたいという思いになるように、努力は続けている。人口減少を止めるというのは今最大の悩みだし、言いわけではないけど、国全体が萎んでいると思う。
 - ただ、市の当初予算（一般会計）で約230億円をキープして、最終的に決算で250億円くらい、この人口で、これだけの財政規模というのは、大きい話と思う。しかし、人口が急に減ったからと言って財政規模も減らせるかと言えば、みなさんの生活に直、影響してしまう話だし、やりくりは厳しいけど財政規模は守っていかなくてはいけないだろうと思っている。借金を減らすよう、徐々に新しい物作らない、最低限の維持管理で、これ以上広げないための制約もしたり、基金(貯金)もだんだん減ってきて、私が市長になった頃には30億くらいだったが、この規模は守ろうと。災害など何かあった時にすぐ出動できる自前のお金というのは必要なもので、そういう時の貯金ももちろんあるが、この規模を何とか守りたいという思いで、今財政運営をやっており、他のところにしわ寄せをするようなことはないようにしながら、なおかつ、市民生活を守らなくてはならないだろうと思っている。
- ②空港については、市ではなく国管理空港だが、ああいう具合に整備できたから東京と2時間、札幌と50分で繋げる。その効果というのは、観光だけでなく、医療分野でも、50分で行けるなら、活用できる体制を組んでもいいねという話でプラスに働いている。大学については少子化で今も苦しい状況。今までは学生確保に苦労していると強調されてきたんだけど、人口減少となって何人であれ、何十人であれ、ここから若者を流出させないという意味でも、大学の役割は大きいと言える。体質の変更も含めて取り組んでもらっているし、ホテルは、市も含め様々な方の出資で作られ、最終的には売却し、今、民間のホテルとなったが、あれだけのホテルが、この街にあることによって、例えばFDAという飛行機会社が、チャーター便で年間7千人もつれて来てくれている理由には、あのレベルのホテルがあるということは、稚内は観光地として一流だと、だから安心してここに来ると。結果はこうなっているが、これらは非常に大事な財産と思っている。今住んでいる人も大事だし、将来何十年後にここに住む人にこれが財産だねと言えるものを作っていないかなくてはならないだろうと思っている。

3. 医療・福祉・地域について

◆参加者からの意見等

(質問)

- ①この地域は農家であっても、親の面倒が見られないほどの忙しさがあって、市外は高齢者の（割合も）も増えてきたけど、亡くなるなど人口も減ってきている。市もいろいろ大変な中で、乗り合いタクシーとか様々な事をやってくれるから、私たちのような病弱な者や高齢者は助かっている。市長が言ったように、人口も減る、財政も大変な中だが、こういうものだけは削らないで頂きたい。
- ②私たちも申し込めば介護サービス（ヘルパー）を利用できるが、沼川地区では25キロ以上あるから、いささかだが交通費が加算される。同じ稚内市にいながら、もし何とかできたら市内と同様の取り扱いにしてくれればありがたいのと、沼川地区には、みのり公園などの施設を作っていただいたし、感謝している。要望として、これ以上財政が大変になったり、地域人口が減ったからと言って、現状のサービスを減らさないようお願いしたい。

◆市長の発言

- ①私の説明不足かもしれないが、職員と話すとき、財政が厳しいと言わないようにと言っていて、財政が厳しいと言えば、物を頼む側から言ったら、言っても無駄だねという話に繋がる。そうではなく、財政のことは我々が考えて、まずは地域住民の人たちが何をしてほしいのか？をしっかりと受け止めること、お金が伴うとすればできること、できないこともあるけども、財政が厳しいという理由でできないということはないはずだと。入口の段階で財政が厳しいのでと、地域の人のお話を聞かないということはないようにという話をしている。
- ②介護の話は、前回ここにお邪魔した時も、我々としても、一つのエリアを持っているので、その中で、介護施設を運営してくれる方はいないのか？と、かつても取り組んできましたけど、なかなかそういう人が現れないということで、今も続いている「天北カフェ」事業のようなことに繋がっている、そこはこれからも変わらず努力するが、ぜひご理解を賜ればと思う。

■ 検討状況など 【担当…政策調整部エネルギー協働課】

- ①乗り合いタクシーは、より効率的な交通体系を構築に向け導入され、現在は、通院や通学、更に高齢者の買い物利用など、特に免許を取得されていない方々にとっては、生活に直結する重要な位置づけを持っているものと認識しています。しかし、これまで導入から5年が経過し、当時の社会情勢から、利用者の状況も変貌していると感じており、利用者からの新たなニーズも生まれてきていると感じており、これまでの利用状況などを調査しながら、事業主体である地域公共交通活性化協議会において、地域の声を把握すると共に、他の交通事業者との調整を十分に図り、拡充に向けて、協議を進めてまいります。

■ 検討状況など 【担当…生活福祉部介護高齢課】

- ②訪問介護（ホームヘルパーサービス）に伴う交通費のあり方については、介護保険の利用者負担以外に実費で請求できていることから、制度については、ご理解をいただきたいと思います。現在取り組んでいる地域包括ケアシステムのなかで、「生活支援体制整備事業」を展開していきますが、この事業で目指す「住民主体を中心に高齢者を支える多様なサービス提供主体における取組み」を構築すべく、支えあう地域づくりのあり方を「第6期 稚内市介護保険事業計画」ですすめて参ります

4. ひと・まち・しごと創成総合戦略について

◆参加者からの意見等

(意見)

- ①稚内もまちひとしごと創生総合戦略を作ったのを広報紙で見たが、どの辺をポイントとしているのか？検討中のところもあると思うが、具体的に説明できるところがあれば聞きたい。
- ②市長が言った取組みをやることによって、観光や仕事が増えてくるだろうと思うが、安心して住める街、住みよい街という部分で医療問題は結構ポイントかなと、病院の問題で、定年を迎えた人が結構札幌に行ってしまうということが多くみたくて、基幹病院の評判がいまいちよくないとのお話で、とても寂しいなど。そこはもう少し重要視させなくてはいけない部分なのかなという風に思う。それと、まちひとしごとの中で人材、人づくりというのが、最大のポイントでいろんなユニークな取組みを始める人材が必要と思う。北星学園大学も入学希望者少ないと聞く。その辺の充実が必要と思う。
- ③市の財政的にも厳しくなっている中でハードは厳しいが、ソフト面でノウハウをどう使うかと、お金を使わず効果を上げていく方法を考えていく必要があると思う。また、市の人事について、どうも回転が速すぎるかなと、産業関係でいえば2、3年で課長が変わってしまうとか、一定の年数いてもらわなくては十分な対応ができるようにならない気がして。異動についても検討してほしい。

◆市長の発言

- ①国が地方創生といって、ひと・まち・しごと創生総合戦略で方針を決めて、市町村も人口見通しと人口減を防ぐためにそれぞれが戦略を練りなさいと。市もそれを作って取り組んでいる最中。特に交流人口の増加、サハリンとの繋がりをなんとかかかつての状態にしたいとの思いで、大きな柱として取り組んでいる。具体的に交流人口で言えば、観光でのお客様をもっと増やすため、受け入れも含めて活性化をしていきたいと。そういうので交流人口を増やしたいし、賑わいや経済交流の活性化を進めていきたいと。

(次ページに続く)

◆市長の発言

今のところ、その2つを中心としているが、この総合戦略は、それぞれの分野で計画を立てて進んでいて、商工会議所でも同じような話をしていて、会議所では、「みなと・かぜ・まち」をターゲットに、この街の振興を図りたいと、「かぜ」というのはまさに送電網の整備だとか、風車の建設など、そこを起爆剤にして、産業振興を図りたいと。「みなと」で言えばサハリンとの関係などの観点で展開したいと。「まち」で言えば、民間の経済界が注目しているのは、市庁舎の建設。大変古いけども、中央商店街から駅にかけて、あの辺の再開発を取り組んでほしいという話が今後まとまってくるだろうと、我々も総合戦略で、観光で交流人口を図ったり、サハリン関係で港の振興を図ったり、クルーズ船を呼んだり、全体的にドッキングして、最終的にはそのような方向で活性化が図られ、人口減少を少しでも食い止められるのかなと、という具合に思っている。

- ②大学の話をする、我々からすると若年層の流出をとどめるという目的であるが、学校運営に関して行政が、いろいろ口を出すというのも慎まなくてはならない。しかし、なくしては大きな影響を与えるので、そこはしっかり取り組まなくてはいけないだろうと、今、大学は「地の拠点事業」というのに取り組んでおり、それで成果を出してくることによって、高校の卒業生から注目される存在になると思う。学長も新しく就任し、そこを含めて今が正念場だと、ここをしっかりと乗り切ってくれなければ、人口もこの先減少してくるし、環境という意味で非常に厳しいよと、いう話を大学とお互い確認し合っていて、いろんなことに取り組んでいる。医療の話では、個々の患者さんの評価がどうこうというのは別にして、勤務医の話と開業医の話がある。開業医の話は、最大で3千万円、設備投資の補助をするので、稚内で開業してほしいと呼びかけている。一方で高齢化していくので、早く手を打たなくてはならないが、そこはしっかり2次医療ということで、旭川や札幌に私と院長とが、あちこちお願い行ったりしているが、流れとしては数年前まで途切れていた、研修医の新しい若い先生が来てくれていて、ここで研修し、またほかのところに行くという流れが徐々に広がっている。定住人口を受け止めるという意味で、何とか一人でも多くお医者さんをここに残したいと思うが、179市町村の中で2次医療圏の医者も限られてる。今は大きな街でさえ産科医が不足していると聞く。お医者さんの獲得はどこの市も苦労している。
- ③人事異動に関して言えば、いろんなご意見があると思う。農政、水産は特殊だが、同じところしか動いていない人がいると言われたことがあるが、本人にとっていいことか悪いことかわからないが、私の方針で言うと、係で言えば5~7、8年、あちこち回って、いろいろ経験して管理職なれば、物の見方が開けるだろうという主張をしている。管理職になってしまうと、年齢的にもかなり上に行っている。いい意味で業界と結びつくのはいいことだが、ものによっては長くいるイメージ。管理職は3~5年で動かしている。概ねそんな流れで考えている。

5. 子育て環境(保育所)について

◆参加者からの意見等

(意見)

- ①仕事は酪農で、新規参入者で、沼川には今年で8年目。子どもは3人で、今年の4月から2歳の子も保育所に入って、やっと主人の手伝いも少しできるかなということ、新規参入者というのは、地域に身寄りのない話で、保育所は必ずあってほしいなというところ。あってよかったが、保育時間が夏は3時半で、冬は2時半でお迎えで、ちょっと短いと、先生にも少し相談したことはあるが、延長になると難しいという話だった。先輩のお母さんたちからは、前は一時保育ということで、預かりの延長もあったようだが、出来なくなったようで、将来的にも安心して暮らしていけるようにしてほしいなと。これからどういう風になっていくのかなと。
- ②沼川に引っ越ししてきて8年目、自分も3人子どもがいて、上の子が今年学校に入学、下の子が8ヶ月。獣医師の資格を持っているので、酪農家の役に立てるように働きたいと思っているが、保育時間が短く休みも結構あるので、フルタイムで働くのは無理でも、先生が実質2人で、(ときどき補助の先生もいるが)、それ以上の一時預かりとかお願いできる状況ではないと。それが昔から変わっていない状況。園児が今19人いて、11人が酪農家の子ども。新規就農者の子どもが3人。ここの人間ではないので、親戚とかもいない。なかなか、夫婦そろって働くことが難しい。私たちの大きな不安としては、ずっと状況が変わらないということと、先生たちも高齢になってきていて、世代交代の準備の様子が見えないというか、負担が大きい状況が続いた場合、突然先生の体調が崩されたりで、閉園になったりとかすると困る。5年後、10年後にも沼川保育所が続くようにとっていて、その辺のお話が聞きたくて、今日来ました。

◆市長の発言

- ①②事前にこの話の説明を受けて、驚くと同時に、現状を把握できていなかったなと。保育所に関しては、運営委員会があるので、私たちが勝手にああしよう、こうしようとなかなかできなくて、運営を地域にお願いしている立場でもあり、そことよく話をすることが前提として話すと、社会は、女性にもっと働いてくれと、社会参加をしてくれと、私も同じ思いだが、世の中が変化している中で、今言うように、働きたくても働けないんじゃないか、新規就農来てくださいと言っても、実際には子育て環境整っていない、と言われたら、本当に申し訳ないという思い。だからと言って、いまずぐ保育士だけ一名増やせばいいとか悪いとか含めて、今、この時点の話だけでなく、何年か後も含めて考えなくてはならない。この地域の子どもを育てる環境をどう考えるかは、今すぐここで、どうするかという話ができれば一番いいんだろうけども、この話を事前に聞いて、所管課には検討するよう指示をしている。
(次ページへ続く)

◆市長の発言

例えば保育士1名増ということで可能であれば、ここにそういう人がいれば一番と思うが、いないとすれば、どういう対応ができるのかを今検討させているので、それをもって、皆さんと、運営協議会を含めて、市の考え方としてお示しをしたいと思う。ただ、基本は、誠に申し訳なかったんだけど、一方で働いてほしいと、あるいは働きましょうという具合に片方をお願いをして、片方で環境整備をしていなかったのは反省していますので、ぜひ、地域に行ったら今検討させていただきますと、改めて皆さんにご説明できるようにと、そんなに長い時間をかけないように、また場を持って、改めて説明させていただきます。ある意味、皆さんにご苦労かけて申し訳ないなと、いう具合に思っている。

■ 検討状況など 【担当…教育委員会こども課】

②へき地保育所につきましては運営委員会で管理運営をさせていただいており、地域の環境も変化しており、保育時間の延長を希望される方がいることも理解しておりますが、市の一存で決めることはできません。しかしながら、市としても運営委員会に全てを委ねるということではなく、保育士の確保等課題となる点がいくつか考えられますが、今後、どのような形で運営していくことが望ましいのか、どのような運営が可能なのか、そのために何が必要なのか等、運営委員会と一緒に考えていきます。まずは、できるだけ早期に地域へ出向き、延長保育に対する具体的なニーズの把握等を行いたいと考えております。



6. 廃屋対策について

◆参加者からの意見等

(質問)

- ①廃屋は稚内に限らず日本全国どこでもあって、解決するのは難しいが、曲淵地区には道路崩れに多くあり、斜めになっている家もある。例年どおりの雪であれば市道に倒れてくる。市も大変で処置してくれとはなかなか言えないが、考え方など聴かせてほしい。
- ②地域として廃屋の所有者を知っていても口に出せない部分もある。行政としてコンタクトなど取る方法はあるのか？

◆市長の発言

- ①廃屋の話は全国的にあって、様々な街が様々な事に取り組んでいる。稚内市にもたくさんあり、いろんな議論をしてきたが悩ましい話。所管課といろんな話をしてきたが、周りの人の生活に影響を与える危険なものは除去するような方向を考えていかなくてはならないだろうと、残りについては、所有者の問題があるので、勝手に触るという訳にもいかないし、強制的にやって後から、だれが費用を負担するのかと、…そのルールをきちんと守らないと、モラルの低下に繋がって、じゃあ、どこもここもという話になって、行政としても困るので、難しい話。市内の状況がどうなのか全部調べて、それをランク付けして、急ぐ物から所有者探しをしている。前回調査では、市内だけで天北地区はやらなかったようだ。改めて写真を撮ったり、いろいろしており、28年度は更に対応を考えていきたい。おそらく全部調査して、急ぐもの、急がないもの、手順としては所有者と様々な交渉をして、それでどうするという判断になるんだろうと思うが、それを待ってて、隣に倒れたり、道路に倒れて交通事故になったりしないよう、そこは急がなくてはならない。それは所管課にも指示している。なんといっても命の安全が一番ですから、決して野放しにするつもりは全くなく、その辺はこれからもしっかり取り組んでいきます。
- ②処置としては当然まず、所有者探していく。登記簿をはじめ探し方は様々なあり、そこから所有者が特定できるかと思うが、わからないこともあるようだ。現実的には最後は好きにしてほしいという感じの所有者もいると思うが、それを許してしまうと、うちもそうするという話になってしまうので、そこには一定のルールはやはり作っていかなくてはならないと。例えば町内会長に見てもらって、危ないねと、所有者もわからないねと言う中で、優先順位をつけていくとか、いろんな方法を考え行かなくてはならないと思う。今は条例があり、基本は所有者を見つけてですが、壊すにあたって補助を出すというところまではやっています。それでも所有者がなかなか壊してくれないのが実態。

■ 検討状況など 【担当…建設産業部都市整備課】

沼川、曲渕の天北地区においては空き家調査を今年度で概ね終えたところで、平成24年度から平成25年度にかけて市内の空き家調査を実施したところ、想定していたより多くの廃屋、危険空き家があったことを踏まえ、平成27年度には沼川、曲渕を含めた市内全域約16,000世帯について調査を実施しました。

空き家等の適正な管理は所有者の責任ではありますが、所有者が市内に不在であったり所有者不明、相続放棄など所有者での対応が難しい物件も多くあります。今後は、実態調査の結果を基に、危険度に応じて優先度を考え、官公署に対し必要な資料提供を求めるなど所有者特定のための調査を行い、適切な管理が行われていない空き家等の所有者に対して、必要な場合は条例に基づく指導や助言、除却費の一部助成等の措置を行うなど、市民の皆さんの安全、安心の確保のため、問題解決へ向けて努めてまいります。

7. 乗り合いタクシー・路線バスについて

◆参加者からの意見等

(意見)

- ①老人クラブの総会で出た話で、乗り合いタクシーがすごく利便性がよく、いい乗り物とみんな歓迎しているが、便数は別にして、普通の定期バスだと沼川は各停留所に止まるが、乗り合いタクシーだと声問まで止まらない。導入の説明の際に気がつかなかったが、曲淵はお年寄りが多く、車の免許ない人ほとんどで、お寺等で沼川に行く場合、高齢者が乗り合いタクシーと定期バスの時間を調整しても、片道はどっちにしても歩かなくてはいけない状況。行きはバスに乗っても、用事を済ませて、帰りのバスまで空き時間あるから、帰りは歩き。とにかく乗り合いタクシーをもう少し使い勝手のいいように、そういう利用は年に何回もないのだが、せめて沼川、曲淵において止まれる形に…規制があるのは当初から説明受けて承知しているが、なんとかならないものかなと。

◆市長の発言

- ①詳しい制度までは私も把握できていないが、この話を事前に聞いて所管課に「できない理由は簡単、利便性を高めるために乗合タクシーを動かしているんだから、出来る工夫をしてから説明に来てほしい」と言った。それでお金がかかるとか、人がどうかであれば検討のしようがある。できない理由を私が(地域に)説明してもしょうがない。という話をしているので、これはどんな格好になるかわからないけど、事情はわかりました。所管課も知っているし、きちんと検討させているので、また、お話を伺いに来るかと思います。

■ 検討状況など 【担当…政策調整部エネルギー協働課】

乗合タクシーは、恵北・増幌及び天北地区と市街地を結ぶ運行体制となっており、自宅からバス停、またはその逆を乗り降りする仕組みとなっています。現行の運行形態に地域内の移動を目的する方を追加した場合、市街地への移動を目的としている方たちへの乗車時間に影響がでるなど利用者全体の利便性低下が危惧されます。そのため、地域懇談会などを開催し、天北地区における交通体系全体の将来像を見据えた、乗り合いタクシー及び路線バスである曲淵線のあり方を協議させていただき、ニーズに応じた地域交通の整備を検討してまいります。また、ある特定の期間や目的に限定した地域内の移動にかかわる手段についても、公共交通の枠組みとは異なる形での対応が可能か、同時に検討を進めます。

8. パークゴルフ場の将来について

◆参加者からの意見等

(意見)

- ①前回のふれあいトークの場で、このパークゴルフ場の件、ボランティアでやっている整備が将来ダメになった時にみのり公園と一体化していただけないでしょうかという相談をした。作った経過もあるので、その後地域で、皆さんの意見を集約してくれとのことだったので、地域の組織としては将来的には一体化でやってもらうのが一番だろう、という意見を聞く、今すぐではなくても構わないので、みのり公園の中で管理してもらいたいと考えている、行政だからいろいろ窓口もあって大変だとは思いますが…作った当時の約束で、できる限り地域でやっていくことでやってきたが高齢化が進んでおり、ぜひみのり公園の充実を図りながら一体化をしていただければ皆さん安心して利用してもらえと思うので検討願いたい。

◆市長の発言

- ①お話はよくわかるし、4年前も同じ話をしたと思うが、このパークゴルフ場オープン当時を思い出すと、事業の補助をしたり、当時の支所長はじめ汗をかいて、当時としては、まちづくり委員会の象徴のような位置づけの事業で、議会で、賛成、反対いろんな意見があった。今回話を聞いて、当時現地も見ましたし、事情もよく分かるけれども、(他の施設のこともあり)整理をどうできるかなと、先ほど今すぐではないという話もいただいたが、問題の整理も含めて、所管でも検討させますので、もう少し検討する時間ください。所管課も非常に悩ましいというか難しいというか、決してお金の問題ではないんです。市がきちんと取り組んでないという事例と違うものですから、そこはご理解いただいて、このパークゴルフ場が何とか残るように、方法を検討したいと思います。

■ 検討状況など 【担当…建設産業部農政課・政策調整部エネルギー協働課】

現状のパークゴルフ場管理運営委員会の役員を中心に行われている管理方法から、地域全体で施設を支える管理のしくみを、地域の課題として一緒に検討していきたいと思います。



多くの皆さんにご参加いただき、活発な議論が交わされました。

お忙しい中ご参加いただき、ありがとうございました。